

- 北海道北広島市にある合同会社竹内農園は、市内の就労継続支援B型事業所など2か所から、精神・知的障害を持つ利用者を中心とした10名を施設外就労として受け入れ、野菜生産を行う。
- 平成26年度 of 取組開始以来、15種類の多品目の野菜を順次栽培しており、大がかりな機械化をせず、手作業を中心とした障害者の作業を創出している。
- メディアへの登場も多いほか、平成30年8月には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問されるなど、北海道で農福連携に興味を持つ方々にとって象徴的存在となっている。

## 取組の内容

- ◆ 農地約4haでコマツナ、中玉トマト、スイートコーン等の野菜15種類を栽培。
- ◆ 障害者は、定植や収穫などの畑作業を行うほか、収穫物の袋詰め作業の95%程度を担っている。
- ◆ 大がかりな播種機や定植機を用いず、障害者のための作業として、手作業を中心とした播種・定植作業を創出。
- ◆ 社会福祉士の資格を持つ妻と協力し、夫婦で農場を運営。
- ◆ 自治体や農政事務所主催の視察を積極的に受入れてきたほか、シンポジウムへの登壇も多数。

農作業の様子



ハウスでの野菜栽培



## 取組の効果

- ◆ 多品目を栽培し、年間200日の出荷を実現。
- ◆ 手作業を多くすることで、多数の障害者を受け入れるとともに、機械の固定費を安くして、利益幅を確保。また、環境に配慮し、平成27年にエコファーマー認定取得。
- ◆ 水耕栽培等の高額な施設を導入しないことで、安定的な経営を実践。
- ◆ 自らの知名度が高まることで、地域の農業者から相談を受け、自ら事業所とのマッチング役となっている。

出荷作業の様子



# 十勝ブランドの活用と出資企業による買い取りで高い工賃を実現

〔運営主体：株式会社 九神ファームめむろ〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」〕（北海道芽室町）

WEBサイト：<http://kyujinfarm-memuro.co.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 北海道芽室町にある「九神ファームめむろ」は、株式会社九神ファームめむろによって運営される就労継続支援A型事業所。平成25年度から、知的・精神障害を持つ約20名の利用者により、通年で、野菜生産及びジャガイモ等の一次加工を行う。
- 町内に障害者の就労場所が不足していたため、町は、障害者雇用の実績がある民間企業に障害者就労のコーディネートに依頼。官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」を発足させた。
- 一次加工したジャガイモの全量を出資企業が買い取ることで、高い賃金を安定的に実現。

## 取組の内容

- ◆ 借用する農地約4haにおいて、障害者はジャガイモ等の定植から収穫までの一連の農作業に従事。
- ◆ 平成27年度に稼働した新加工場では、ジャガイモの皮むき・カット・真空パック詰め等に加え、ゴボウや長いもなど、加工作業を拡大。
- ◆ 出資企業である惣菜店が、一次加工したジャガイモの全量を買収することにより、安定した収益を確保。
- ◆ JAめむろからは、農作業指導を受けるほか、収穫量が不足する場合は、ジャガイモを提供してもらうなど、協力体制を構築。
- ◆ 平成27年度「都市農村共生・対流総合対策交付金」を活用して、町内に開店したコミュニティレストランでは、九神ファームめむろで収穫した野菜を用いており、障害者が調理や接客を行っている。
- ◆ 町内の宿泊施設と共同で特別支援学校の修学旅行を誘致し、生徒に農業体験の場を提供。

## 取組の効果

- ◆ 平均約10万円/月を超える高い賃金を実現。
- ◆ 本プロジェクトによって、町内に多くの障害者の就労先が創出された。
- ◆ 地元の離農した農業者に、農業サポーターとして農作業の指導を行ってもらうことで、高齢者の生きがいとなる場所が生まれた。
- ◆ 利用者は、働くことや安定的な賃金を得ることを通じて成長し、更なるキャリアアップを実現。役場、JA、食品販売店などでの一般就労に移行した者も多数。

農作業の様子



加工場での作業



コミュニティレストラン



〔合同会社 農場たつかーむ、合同会社 自然農業社〕（北海道壮瞥町）

WEBサイト：<https://tatukam.jp/>

視察受入れ：不可

報道機関受入れ：不可

- 北海道壮瞥町にある「合同会社 農場たつかーむ」及び「合同会社 自然農業社」は、福祉経験を有する農業者夫婦によって設立された農業法人。平成19年以降、順次、障害福祉サービス事業所としての指定を受ける。現在は、知的・精神障害を有する約50名の利用者が、養鶏、野菜生産及び農産物加工販売を通年で行っている。
- 昭和62年に新規就農して以降、町内で規模拡大を続けるとともに、平成21年に認定農業者となる。
- 有機栽培と平飼い養鶏によって、生産物のブランド化に成功。ここ数年、利用者の平均賃金は、北海道内の農作業に取り組む障害福祉サービス事業所でトップクラス。

## 取組の内容

- ◆ 合計約500坪の鶏舎12棟で、約3,000羽の平飼い養鶏を実施。また、農地約11haにおいて、鶏糞を堆肥に利用して、ズッキーニやニンニクなどの野菜の有機栽培を実施。
- ◆ 障害者は、養鶏については、給餌、卵集め・洗卵、鶏舎清掃等に従事。また、野菜栽培については、播種、肥料散布、草取り、収穫物の計量・袋詰め等に従事。
- ◆ ダイズを無添加味噌やドライパックに加工するほか、熟成黒ニンニクの製造、切り干し大根作り、鶏卵を用いた菓子の製造販売などで、冬期間の作業を創出。
- ◆ 平成16年には、NPO法人を設立し、通所出来ない障害者のためのグループホーム事業を開始。
- ◆ 平成26年にカフェをオープンし、生産した鶏卵や野菜を食材として使用。

## 取組の効果

- ◆ 平成13年、農産物の有機JAS認証を取得。付加価値の高い農畜産物や加工品の販売を行うことで、平成29年度の平均月額賃金は、たつかーむのA型が約12万円、自然農業社が約9万円と、北海道内の事業所でトップクラスを実現。
- ◆ 一つの運営法人が、およそ30年間もの長い年月をかけて、障害者の生活に必要な多くの施設と、確かな農業技術による経済活動の基盤を築き上げてきたことで、障害者が、町内で生活していける場を提供する役割を担っている。

平飼い養鶏の様子



平飼い有機卵



農作業の様子



# 作業の細分化とマッチングで、障害者を安定的に受入れ

④グループ内連携型（農業側から参入）

〔運営主体：特定非営利活動法人 どりーむ・わーくす〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「どりーむ・わーくす」〕（北海道余市町）

WEBサイト：<https://www.npo-dreamworks.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 北海道余市町にあるNPO法人どりーむ・わーくすは、自閉症のお子さんを持つ農家出身の方が、Uターンして新規就農し、平成28年に設立。平成29年には、就労継続支援B型事業所「どりーむ・わーくす」を開設した。
- 農園では、平成26年から、施設外就労で障害者の受入れを開始。現在は、どりーむ・わーくす 及び 他の障害福祉サービス事業所から、年間延べ150名以上の障害者を受け入れ、野菜と果樹栽培に携わっている。
- カゴメ株式会社との契約栽培で、ジュース原料のトマトを安定的に出荷。また、町内の高等学校の生徒のアルバイト受入れや、行政関係者を招いた農作業体験会を開催。平成30年度には、北海道内で農福連携の啓発等を行う一般社団法人を設立するなど、自社にとどまらない普及活動を積極的に展開。

## 取組の内容

- ◆ 農地約5.5haで調理用トマト、ブドウ、カボチャのほか、カゴメ株式会社との契約栽培でジュース原料用トマトを栽培。障害者は、定植や収穫作業などに従事。平成31年度からは、自ら設立した就労継続支援事業所に2名の利用者を迎えた。
- ◆ 農作業をできるだけ詳細に細分化した「作業分類適合表」を作物別に作成し、一人ひとりの障害特性に合わせたマッチングを実施。
- ◆ 指の切れないハサミを導入して、怪我のリスクを軽減するなどの工夫を行う。
- ◆ 農作業を通じた交流の機会となるイベントを定期的で開催。
- ◆ 平成29年度「農山漁村振興交付金」を活用し、トイレ・休憩所を整備。さらに、ビネガー製造機を導入し、加工のトライアルを実施。

## 取組の効果

- ◆ 徹底した作業の細分化、作業ルールのシンプル化、安全への配慮により、障害者の作業範囲を拡大させ、障害者の戦力化を実現。
- ◆ 農作業を細分化することで、農業経験のない学生や高齢者、育児中の主婦などにも農業の働き手となってもらうことができ、農業体験の場などを通じて、受入れ対象者を拡大。
- ◆ 自らの工夫を積極的に発信し、アドバイスをすることで、北海道内において農福連携の取組の輪を広げている。

トマトジュース



トマトの収穫



指の切れないハサミ



作業分類適合表

作業名	作業内容	作業時間	作業場所	作業頻度	作業強度	作業環境	作業機具	作業服装	作業注意事項
トマトの定植	トマトの苗を畑に植える	約10分	畑	毎日	軽	日差し	スコップ	作業服	苗を傷めないように注意
トマトの収穫	熟したトマトを収穫する	約15分	畑	毎日	軽	日差し	ハサミ	作業服	収穫したトマトは丁寧に扱う
トマトジュースの加工	トマトをジュースにする	約30分	加工場	毎日	中	熱気	ジュース機	作業服	安全に作業を行う

〔運営主体：特定非営利活動法人 サトニクラス〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「サトニクラス酵母」〕（北海道月形町）

WEBサイト：<https://www.satoniclass.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 北海道月形町にある「サトニクラス酵母」は、NPO法人サトニクラスが運営する就労継続支援A型事業所。町内の社会福祉法人の理事経験がある農業者が、障害者や生活困窮者の支援を目的として平成26年に設立した。現在、知的・精神・身体障害を持つ利用者10名が、野菜生産や漬物製造等を通年で行っている。
- 野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年作業を安定的に創出。
- 農林水産省の交付金を活用し、乾燥野菜の開発、農業者が必要とする労働力の調査、障害福祉の知見を有する農作業指導者の育成など、農福連携の取組をより拡大する努力を継続。

### 取組の内容

- ◆ 約1haの農地でナス、キュウリ、ダイコン、メロンなどの野菜を生産するほか、設立者を含む月形町内の農家6戸に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事。また、事業所内の加工場で漬物と乾燥野菜を製造。
- ◆ 町内のJAからミニトマト出荷用の箱折り作業を受託（平成30年度は約78,000ケースを出荷）。
- ◆ 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて2～3人一組のチームを編成。また、漬物製造工程を「取り出し・計量・真空パック詰め・ラベル貼り」に細分化し、利用者を割当て。
- ◆ 平成27年度「都市農村共生・対流総合対策交付金」を活用し、乾燥野菜の開発や農家が必要とする労働力の調査を実施。また、平成29年度「農山漁村振興交付金」を活用し、地域協議会の事務局として農作業指導者の育成等の事業を実施。

### 取組の効果

- ◆ チーム作業により、収穫に適した野菜の見落としが防止されるとともに、肥料散布等の正確性が向上。このことにより、職員による事後確認ややり直し作業が減少。
- ◆ 漬物製造工程の細分化により、生産性が向上。製造量は、開始当初の200パックから2,000パック（平成30年度）へと約10倍に増加。
- ◆ 交付金事業を実施することで、町内で農福連携に取り組もうとする農業者が増加。

